



231号

平成19年  
10月5日

# 自然の家だより

岐阜市少年自然の家（岐阜市教育文化振興事業団） 〒501-2502 岐阜市山県北野 2,0 8 1 番地  
Tel 058-229-2888 Fax 058-229-2933 Email:gishizen@he.mirai.ne.jp URL:http://www.mirai.ne.jp/gishizen/

1月7日発行の『自然の家だより 第202号』では、長良川をはさんで金華山の北に位置する標高417.9mの“岐阜市の最高峰”が、国土地理院発行の「地形図」では、ずっと無名のまま放置されている問題を取り上げました。地元で育った「少年自然の家」の酒井、幼い時から「あれが岐阜市の最高峰の百々ヶ峰」と言われて仰ぎ見ながら育ったのに、その「百々ヶ峰」、学生時代に見た「地形図」では、その西約1kmの“何でもない山”に付けられていたのです。

調べたら、地形図に始めて「百々ヶ峰」の名が書き込まれた「陸地測量部編纂の地形図」の時代からずっと「百々ヶ峰」の位置が違ったままなのです。そのため、角川書店や平凡社の『地名辞典』さえも「百々ヶ峰＝標高341.5m」と、誤った状態になっているのです。酒井は『市の最高峰の名が奪われ、以来80余年も黙って耐えている百々ヶ峰に申し訳ない』との思いから、伊奈波中に勤めていた時に国土地理院に提起し、結局足かけ5年を要しましたが、今年3月30日やっと「標高417.9mの市の最高峰が、晴れて本来の名の百々ヶ峰となった」のでした。

## やっと標高417.9mの 市の最高峰が「百々ヶ峰」に

もっとも市販の「地形図」は、まだ下の「左」のままですが、国土地理院のホームページ上で“試験公開”されている『二万五千分の一の地形図』では、すでに右の状態に正されており、建物や道路の訂正が本年度中になされ、在庫状況等も考えて「紙地図の発行」に進むようです。

「百々ヶ峰」の位置が正されただけでなく、フリガナも「とど」から「どど」に正されました。



84年ぶりに市の最高峰に本来の名前が戻ったことは喜ばしいことですが、山塊の西側の「マイクログの反射板が建っている山」を、地元の呼称である「真福寺山」とすることを市が決断できなかったため、結果的に最高峰の名が奪われていた時の「百々ヶ峰・東峰」「西峰」という、“苦し紛れの造語”が残ってしまうことになったことは、極めて残念なことに思えます。

10月10日 PM6:30 過ぎにNHKが放送

40万人が住む県庁所在地の最高峰(三等三角点)が、

地形図で無名のまま80余年も放置され続けたのは恥ずかしいことで、その本来の名が戻ったのも“珍事”です。そんなことからNHKが興味を示し、“ほっとアングル”という五分ほどの番組として、10月10日(水)の午後6時半過ぎに流される予定になっています。80余年も無名だった「岐阜市の最高峰」、どんなアプローチで名が戻ったのかを見てもらえれば幸いです。